

静岡県立天竜高等学校

令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録（概要）

1 開催日時 令和7年10月27日(月) 14:30～16:30

2 開催場所 静岡県立天竜高等学校（二俣校舎）会議室

3 欠席者 坂井典子委員

4 議事の概要（次第）

(1) 校長挨拶

- ・今年度の本校では、昨年度浜松市と結んだ協定を受け、イベントなどを行っている。天竜川・浜名湖地域12市町村合併20周年記念事業を本校にて実施の予定。
- ・3年生の進路は、昨年度以上に求人が多く、売り手市場となっている。大手企業も高校生の募集を行っている。一方で、地元根差した企業への就職者もいる。天竜厚生会にもお世話になる。
- ・地元の国公立にチャレンジする生徒が3年続いている。
- ・ボート部が全国大会で6位入賞。
- ・建築甲子園の県大会2連覇。専門高校と違い、2年間で建築を学ぶ学校としてよく頑張っている。

(2) 授業見学

6時間目の授業の一部を参観した。

(3) 教育活動の状況説明

- (ア) 各学年主任及び地域協働センター長から、学年の状況等について説明を行った。
(添付資料参照)

(イ) 教育活動について（副校長）

〔学校の様子〕

- ・教員が生徒に寄り添い、スモールステップで自信をつけていく。
- ・部活動も熱心に活動中。有志の天竜ラボも様々な活動をしている。キッズ建築プロジェクト等。
- ・行事も、少しずつリバイスをかけながら進めている。

〔地域連携〕

- ・各学年、教科で外部講師を招いての授業を展開。
- ・地域連携で、商工会の島委員の協力のもと、デザイン系列の生徒のデザインが地元で活用される。実体験を伴う授業が行われている。
- ・福祉科は、生徒の企画でスマホ教室・eスポーツ等のゲーム体験を地域で開催。
- ・地域協働では生徒の成長を実感できる。

〔受賞〕

- ・農業クラブが生徒の意見表明で県大会優勝。関東大会へ出場。平板測量競技会県第2位。
- ・建築甲子園で県大会優勝。ICS デザインアワード最優秀賞など受賞多数。

〔広報〕

- ・夏の一日体験入学では、生徒 151 人・保護者 102 人が参加。本校のことがよくわかったという感想。11 月に授業見学会、冬休みに個別相談会を行っていく。
- ・第 1 回会議で助言を受けた福祉科生徒への聞き取りを実施したところ、福祉科 1 年の保護者のうち 3 / 4 は、保護者が介護関係の職。生徒は自然な流れで福祉科を選択している。生徒に広報についての意見を求めたところ、「生徒が直接中学生に向かって話をすればいい」との意見が出された。清竜中学では、実際に福祉科の生徒が中学生に向けて説明を行った。他中学にも声掛けをしている。

(ウ) 生徒会より（生徒会長、生徒会役員 3 名）

- ・2 年生 7 人、1 年生 9 人で活動中。
- ・学校行事やイベント企画、生徒総会の司会を行う。
- ・話し合いを重ね、よりよい運営ができるようにしている。
- ・生徒会をまとめること、責任感を学んでいる。
- ・日常から生徒の声を聞くようにしている。
- ・次年度の体育大会で、生徒全員が鉢巻きを巻けるように取り組んでいる。

5 協議（本校に期待する教育内容や生徒像等について）

- 意見 1 地域に根付いた、なくてはならない天竜高校になってきている。これからもそういう生徒を育てていってほしい。生徒も成長する、学校も変わる。3 年生の進路が決まっていない生徒のバックアップをお願いしたい。
- 意見 2 地域に対しての well-being が他校より 0.3 ポイント高いというのは売りになるのではない。「自分らしさ」を出せることは売りである。今、ボート部、建築系列、天竜ラボで結果が出ている。教員の well-being を調べたら、高い数値が出るかもしれない。教員側の売りにもなる。生徒・教員の well-being を力に変えていく。
- 意見 3 教員が意欲的である。生徒・先生だけでなく外部関係者の well-being も三位一体となっていくと面白くなっていくと思う。
- 意見 4 福祉科のためにできることはすべてやっていく。10 年さかのぼると、天竜高校の卒業生も退職しているものが少しいる。福祉の世界でやっていくという専門性とプライドについて、考えていかななくてはならないと感じている。福祉は AI の活用はしても、AI に淘汰される業界ではない。良い職場であることを PR していく。
- 意見 5 子どもが卒業して半年で、学校の雰囲気が大きく変わったと感じた。生徒が授業に落ち着いて取り組んでいる。天竜高校は楽しいから、親子の会話に学校の話が出てくる。特色のあるコースで、自分のやりたいことを学べる学校である。
- 質問 1 受験に向けて、中学生に対して高校生の顔を見せることは大事である。今年の手ごたえはどうか。
- ←中学 3 年生はまだ学校の行事に目が向いている。一方で、天竜高校のことはよく知られている。一日体験入学や学校見学会は生徒が自分で申し込むので、中

学の先生も完全には把握できていない。(副校長)

←今年は磐田・袋井で中学生が減少している。(校長)

意見 6 学校の魅力はたくさんあるので、それを実感できる方策があるといいと思う。

←生徒のロコミは大事である。各中学に、卒業生の写真とメッセージを入れたものを配り、掲示してもらっている。(校長)

意見 7 春野校舎とコラボできているのも先生方の努力によるものである。

←若者会議は春野校舎ともコラボしている。(校長)

←天竜文学賞・吹奏楽部の合同演奏・柔道も大会は合同で引率している。(副校長)

←先生方の well-being でいうと、教員のストレスチェックの数値は他校と比べてよいものになっている。(校長)

意見 8 今いい状況だと思う。生徒がよく頑張っており、組織文化が生徒に与える影響もある。組織文化は放っておいても駄目で、意図的に作っていく。シリコンバレーの「Yes And」、本田宗一郎の「やらまいか」のようになっていくといい。

意見 9 福祉科の保護者の 3 / 4 が福祉職というのはヒントである。介護職に就いている保護者もプロモーションの対象になる。

意見 10 ロコミによって、かつての「じょうろ型」の選択の仕方がなくなり、ロコミを見ていきなり選ぶようになっていく。商品の説明を書くのではなく、ロコミを書くという戦略もよい。

意見 11 農福の連携が言われて久しい。クローバー通りなどで、若者のアイデアが形になり、そこで天竜高校の卒業生が活躍しているようになると良い。

←本校の生徒・教員は、外部や地域に相談すればできるのではないかと考える。スマホ教室やeスポーツなど、それが形になったものもある。(副校長)

意見 12 「限定された合理性」により、今あるものの頭の中で判断するから「できない」となる。専門家や地域の人が入ることで、解答が変わる。人をつなぐことでできるようになるものもある。

意見 13 天竜高校のインスタがあまり流れてこない。今の生徒はインスタや TikTok が中心である。インスタのすすめに上がってくると、中学生が注目する。
←インスタも「インスタらしく」仕えていないと見てもらえない。生徒が作るものの方が、出来が良い。校内でも検討したが、労力と効果の面で課題がある。
(副校長)

6 その他

次回は、2月4日(水)の開催予定である。

令和7年度 学校運営協議会 委員

(順不同・敬称略)

	氏 名	所 属	備 考
委 員	村瀬 勇	社会福祉法人天竜厚生会 総務部長	
委 員	町田 和代	本校PTA 元会長	
委 員	市川 勲	本校後援会 理事長	
委 員	坂井 典子	地域代表	
委 員	島 明男	天竜商工会 事務局長	
委 員	坪井 秀次	静岡大学学術院 グローバル共創科学領域グローバル共創科学部/未来創成本部 准教授	
職 員	渡辺二三彦	天竜高校 校長	
職 員	井上 千春	天竜高校（二俣校舎）副校長	
職 員	大津久美子	天竜高校 事務長	
職 員	須山 訓秀	天竜高校（二俣校舎）教頭	